

心を育てる

情報モラル教育

広教ニュースレター

Vol.9



広教

HIROKYO 広島県教育研究センター

2011.4

<http://www.hirokyo.co.jp>

情報モラル教育は、道徳の授業でどのように位置づけ、どのように指導すればいいのでしょうか。今回は、関西学院大学 教職教育研究センター 横山 利弘 教授のご講演（「情報モラル教育と道徳の授業」より）をご紹介します。



関西学院大学
教職教育研究センター
横山 利弘 教授

情報技術の発展と 錯綜する問題

情報技術が発展し、様々な恩恵を受けるようになった一方で、多くの道徳上の問題が起きるようになりました。インターネット上で中傷の書き込みをされた場合に、それが子どもたちに与える心理的な傷の深さは計り知れないものがあります。しかも情報モラルの課題は錯綜しており、大人も子どもも初めて出会う新しい問題にただ戸惑うだけです。また、子どもを守ろうと法律を策定しても、施行される前に技術が進化し、結局法律が後追いという現状もあります。

こういった状況の中で私たちは、何を子どもたちに指導すればよいのでしょうか。問題が起きそうな個別の事例を指導すればよいのでしょうか。しかし、今や事例は山のようにあり、それら一つ一つをすべて教えるには時間が足りません。時数が限られた教育活動では限界を超えているのです。では、いったいどうすればよいのでしょうか。それは全部に網がかかる教育、つまり心を育てる教育に力を入れることしかないと思うのです。よいことと悪いことを判断する力やブレーキをかけることができる意志の力を育てることが大切なのです。そうすれば、どんな問題にぶつかっても自分でしっかり考え、判断して実践できる子どもになるのです。

情報モラル教育と道徳教育

では情報モラルとは、具体的にはどのようなことをいうのでしょうか。インターネットやケータイが一般に広まったことで、新しい特別なモラルができたのでしょうか。思いやりだとか友情、正義など、一般的に道徳教育であげられている道徳的な価値と違いがあるのでしょうか。いいえ違いなどありません。道徳教育で育てるべき道徳的価値と同じです。

ただ、情報機器や情報を扱うときには、危険性も教えないならならぬでしょう。教育活動の中で情報機器の扱い方をきちんと教え、インターネットの持つ影響の大きさについて考えられる子どもを育てることが求められているのです。

情報機器や技術は便利な道具であり、我々の生活になくてはならないものになっています。それらを扱う人間が問題を起こしているのです。ICTのーT（情報、技術）のみが先行し、大切なC（コミュニケーション）がついていない今、コミュニケーションする力を集中的に育てる必要があります。本当の心を育てる道徳教育を真剣に模索し、情報教育と一緒に進めていかなければなりません。

道徳の時間と読み物資料

道徳の時間には、主として読み物資料が使われます。

読み物を読んで道徳性が育つのかと思う方も多くいらっしゃると思います。それは、自分自身が体験を通して生き方が変わったという経験をお持ちの方が多くからです。だから読み物を用いた道徳の授業よりも体験活動をさせる方がよいのではないかというご意見です。

ところが、自分の人生を考えてみても、自分の生き方が変わるような体験は、しょっち

ゆうは起こりませんでした。皆さんもそうだと思います。

しかし、読み物資料の場合、授業では、登場人物は道徳的に変化します。読み物資料を用いた授業では、登場人物の生き方がなぜ変わったのか、なぜ変わることができたのかを考えることができます。

最初、悪いことをした主人公が悩み苦しむ、よい方向へ変わるといった資料がありますが、その登場人物を通して、生き方が変わるような体験ができるのです。しかも、道徳の時間は毎週ありますので、毎週そのような体験ができるのです。

また、読み物はイメージ力をつけることができます。ほんの少しの挿絵があるだけで、あとは文字情報である読み物は、子ども自身が自分の中で読み物を映像化、イメージ化することができます。しかも、思い浮かべる映像は、子ども一人ひとり違います。イメージする力が強い子どもは、いろいろな場面を想像できるので、どうしたらよいかをしっかりと考えることができます。例えば、「だれかが困っていないか」「嫌な気持ちにさせているのではないか」と深く考えることができるので、次に振る舞うべき行動が自然とよいものになるのです。

児童・生徒を対象とする情報モラル教育で大きな問題は、匿名性、顔の見えないコミュニケーション、情報の拡散性などにあります。したがって、情報を受け取る人間の気持ちをイメージする力や情報発信の結果をイメージする力など、イメージを育成することが欠かせません。その意味からも読み物資料を用いた授業でイメージ力を育てることが有効なのです。

さあ、道徳の時間に読み物を使って、イメージ力の強い子どもを育てましょう。



情報モラル教育と

JAPET主催のセミナーを
取材しました!



日本教育工学振興会(JAPET) 主催

<http://www.japet.or.jp/>

道徳の授業 セミナー

平成23年1月22日、東京有楽町にて、社団法人日本教育工学振興会(JAPET)主催の「情報モラル教育と道徳の授業」セミナーが開催されました。小・中学校だけでなく、高校、大学など様々な校種の先生方が北は北海道、南は沖縄から参加されていました。また、道徳の資料を分析する演習では、情報教育を推進されている方や道徳教育を推進されている方など様々な立場の方々がグループになり、活発な意見が交わされてセミナーは大いに盛り上がりしました。

パネルディスカッション

問題提起

平松 茂 先生(岡山県岡山市立岡北中学校 校長)
桐野 志摩美 (広島県教科用図書販売株式会社)

情報機器のめざましい進展により、知識の教育だけでは問題解決には繋がらず、法律を制定しても、施行されるころには技術が進展し、後追いになってしまうという現実がある。学校はどう対応すべきなのだろうか。

心の教育、道徳の重要性

横山 利弘 先生(関西学院大学 教職教育研究センター 教授)

一つ一つの事例を教育活動で指導できるわけではない。すべてに網のかかる教育、心の教育を進めていくことが大切。情報モラルという特別なモラルはなく、情報モラルも、道徳で育てる価値と変わるわけではない。危険性や扱い方を教えながら、情報機器の持つ影響の大きさを考えられる子どもを育てる必要がある。読み物資料で授業をすると、子どもたちは、自分で文字情報を映像化することができる。そして、登場人物に自分を重ね合わせて、道徳の価値を深く考えることができる。



パネルディスカッション

道徳の資料の読み方と演習

資料の分析と授業

行本 美千子 先生(日本道徳教育学会近畿支部 支部長)

道徳の資料の読み方は、国語の読みとは違い、道徳的な問題に焦点を当て、主人公の心の変化を読む。主人公が道徳的に変化する資料が基本ではあるが、場の空気が道徳的に変化する資料もある。

●主人公が道徳的に変化する資料で分析 ※文部省 道徳教育推進指導資料「ヒキガエルとロバ」

(1) 資料を読む

- ①ストーリーを読む。
- ②登場人物の心(気持ち)を読む。
- ③道徳上の問題の展開を構図化する。※最も道徳的に変化する人物を追いかける。
「起」道徳上の問題の発生
「承」自分の起こした問題で悩み、葛藤

助言→

「転」何かのきっかけで主人公が道徳的に変化
「結」道徳的な高まり

(2) 中心場面で中心発問を考える

「転」あるいは「結」の部分で、心(タマゴッチの下)が書かれていないところで、発問を考え、主題に迫る。

(3) 中心発問に対する予想される子どもの反応を考える

できるだけたくさん出す。一つか二つしか出ないときには、中心発問の文言を変えて工夫する。

(4) 主題、内容項目を考える

「助言」が主題を表すことが多い。(特に小学校の資料)
「ヒキガエルとロバ」の場合はロバ(の行動)が助言となっており、生命尊重が主題。

(5) 基本発問を考える

2～3程度

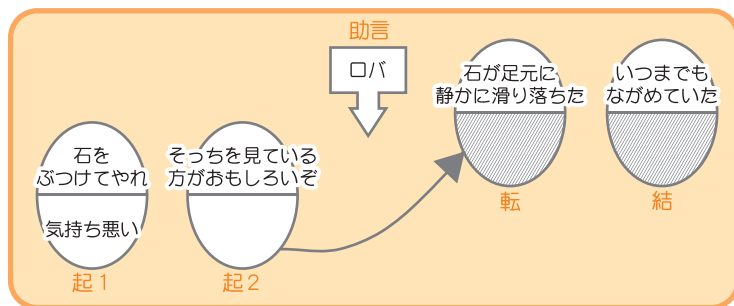
(6) 基本発問に対する予想される子どもの反応を考える



横山利弘 教授による
「タマゴッチ」



行本 美千子 先生



■「ヒキガエルとロバ」の構図

●場の空気が道徳的に変化する資料 ※広教 道徳用読み物「想いとどけて」より「授業参観日」

※横山 利弘 先生監修「想いとどけて」
行本 美千子 先生執筆「授業参観日」

読み物資料を読んで、しっかりと味わいました。その後、「中心発問」、「予想される子どもの反応」について、5～10人のグループで話し合いをして、全体で発表しました。明日からの授業に即、役立つ、貴重な演習となりました。



資料を味わって読む



グループでしっかり話し合い



全体へ発表

広教ニュースレター は、情報モラルや情報教育に関するニュースや授業実践、また最新線で活躍されている先生方の寄稿や対談などを掲載するニュースレターです。

広島県教科用図書販売株式会社
〒733-0032 広島県広島市西区東観音町15番12号
TEL 082-291-1088 FAX 082-291-1082
URL <http://www.hirokyou.co.jp> E-mail info-hiroshima@hirokyou.co.jp

広教
HIROKYO 広島県教科用図書販売株式会社